

令和5年9月定例会 個人質問

高村の質問と理事者答弁の一部を抜粋して掲載しております。

自治体DXは、住民の利便性向上や行政の効率化・新たな価値創出を実現するために、今後ますます重要となる取り組みであり、これまでの議会でもさんざん議論してきましたが、他の自治体に後れを取らぬよう、改めて質問いたしました。

各種申請の電子化について

Q 本市では各種申請において、今年度末までにはすべての手続きの電子申込・オンライン申請ができるように進められていたが、現状と本年度末の見込みをお示しを。

A 行政経営部長 答弁
法令や条例で可能とされる900の手続のうち、概ね6割の電子化が完了しており、残る4割については速やかに対応を進める。

Q 以前より指摘している、留守家庭児童育成室(学童)の入室申請がまだ手書きであるが？

A 地域教育部長 答弁
令和6年度の入室分からオンライン申請できるように進めている。

AIの庁舎コンシェルジュについて

Q 本庁舎正面玄関の庁舎案内・総合案内のコンシェルジュの補助として、特に操作を必要としない対話型AIを使ったデジタル端末・ロボットをサービス向上の為に設置してはどうか？

A 市民部長 答弁
AIやデジタル機器による案内について、多様なサービスの提供という観点から、他市事例などを参考に研究していく。

市内施設のICT化について

Q 公民館などの貸室の各部屋で、警備員や従事する職員がカギの掛け閉めをされているが、アプリやシステム等で遠隔操作できる施設が市内にどの程度あるのか

A 地域教育部長 答弁
現時点では、各部屋の施錠を遠隔操作で管理している施設はないが、効果的・効率的に業務を進めるため、施設管理のICT化について今後検討していく。

フリーアドレスについて

Q 庁内では各部署でフリーアドレス(オフィス内に固定の席を設けず自由な座席配置にする事)を採用されているが、Wi-Fiや電話回線等インフラの整備が不十分な中で実施すると、結局非効率に陥りがちで、現在その壁にあたっているのではないかと？

A 市長 答弁
様々に意欲的に取り組んで、どの職場でフィットし、どれほど効率性を上げたのか、最適な姿に落ち着かせていくためのトライ・アンド・エラーの最中である。

生成AI(ChatGPT)について

Q 本市において、ChatGPT導入のためのAPIの利用契約などの検討や計画はあるのか？

A 行政経営部長 答弁
今年度の早い段階から検討に着手をし、他の自治体の事例も参考に、適切・安全な利用のためのルール整理を進めている。まずは無償利用可能な範囲で開始する予定であり、有償のアプリ等の利用については、今後の利活用状況等を踏まえ、検討していく。

Q 大規模言語モデル(LLM)の要はプロンプトにあり、職員への生成AIの研修等の促進・推進を求める。

A 行政経営部長 答弁
対話型の生成AIを使いこなすためには、プロンプトがキーであるということは指摘のとおりである。現時点では、職員研修の実施は未定であるが、AIに期待する成果を効率的に引き出す手法について、周知を図っていく。

教育委員会の情報システムの組織編成について

Q 情報セキュリティの強化と、情報システムに関して総合的に管理できるよう、また今後時代の変化やDXの加速に伴い、様々な判断とスキルが必要となる中で、教育委員会として情報システムを専門とする組織が必要ではないかと？

A 教育監 答弁
情報システムについては、日々飛躍的に進化しており、児童・生徒の安全を守るためにも最新の情報を収集し、時代の変化、そしてDXの加速化に対応していく必要を認識している。新たな組織編成の検討には至っていないが、同規模のシステムを有する自治体の動向にも注視していく。

今議会は主に、ICTやIoT、AIについて質問いたしました。そして、「熱中症対策について」は、ChatGPT4をはじめ複数の生成AIを試用して質問致しました。

何度も改善と調整を重ねようやく有効な原稿になりましたが、生成AIに対する自身のプロンプト作成のスキル不足を痛感致しました。

明確性・簡潔性・情報提供や事例・バイアスの回避や前提知識など、対人コミュニケーションでも大切なことですので、今後も勉強を続けたいと思います。



熱中症対策アイスバスについて

Q 学校や幼稚園、市内の施設や行事・イベントでの熱中症患者には迅速な対応が求められる。アイスバス(全身が浸かる大きさの浅いビニールプール等に水や氷を入れる)は、熱中症患者の体温を素早く下げる手法として、有効性が注目されている。このアイスバスを市内施設に常備し、緊急時の応急措置として対応力の向上が期待できるが、消防の見解を求める。

A 消防長 答弁
救急車が到着するまでの応急処置として、冷却手段の一つの方法と考えられるが、エビデンス等の知見が少ないため、現時点で設置する場合には、専門の知識を有した者を配置する必要がある。

Q 生死を左右する局面において応急措置として有効であるのは明らかであるとの考えから、学校施設や地域施設、児童施設に常備する事を求める。

A 理事者 答弁
現時点では知見が少なく、設置するためには課題があると認識している。今後、関係部局とも情報共有を図り、他市等の状況も注視し、研究していく。